

時代を見据えて

福井県英語研究会会長

田 中 宏 明

コロナ禍における各部の活動

昨年度末から、今年度初めにかけて、約3ヶ月間、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学校は休業を余儀なくされました。これまでにまったく経験のない事態であり、それぞれの学校でたいへん苦慮しながら対応しましたが、本会の活動についても同様の苦心惨憺がありました。「高等学校英語弁論大会」は、オンラインではなく、参加者がステージに立ち、聴衆の前でパフォーマンスをすることができるように武生高校葵講堂を会場としましたが、受付で一人ひとり検温し、観客席はソーシャルディスタンスを確保し、一人ひとりのスピーチの後にマイクと演台をアルコール消毒するという企画部員の献身的な協力のおかげで盛大に開催することができました。放送テスト部においても、4、5月に活動できず、全体会を開けないまま、問題作成業務を始めることになりましたが、例年よりも短くなったにもかかわらず夏休みに集中的に会議を開くなど工夫して、滞ることなく業務を進めることができました。研究部でも、リーディングテスト作成に際して、当初はオンライン会議で問題作成をするなどたいへんな苦労はありましたが、着実に問題作成を進めることができました。ディベートについては、滋賀県で開催する予定だった全国大会がオンラインになったことも考慮して、県内の研修会、大会もオンラインで行いました。オンライン特有の不便さはあるもののスタッフの献身的で熱意ある協力のおかげで大きな成果を上げることができました。広報部は、総会における講演会の講師を本県出身の近畿大学文芸学部講師谷崎由依氏に依頼し、講演内容についても連絡を取りながら準備を進めました。残念ながら、講演会は開催できませんでしたが、本年度の会報について、素晴らしい構想を立てました。福井県の高校入試に全国に先駆けてリスニングテストを導入するなど、本県の英語教育の発展のために数々の輝かしい御功績を収められ、本会の活動に多大なる御支援を賜り続けている岩崎達雄先生に玉稿を依頼することを企画したのです。白寿をお迎えになり、ますます御壮健で、常に本会の活動にエールを送り続けてくださっている岩崎達雄先生に本会報でご執筆いただくことは、誠に光栄であり、唐突な依頼を快諾いただいた先生の御厚意に深謝いたします。

パンデミックは社会に一大変化をもたらす

この世界を震撼させ猛威を振っているコロナのパンデミックは、将来必ず歴史の教科書に記されることになるでしょう。このような世界的なパンデミックの後には、大きな社会の変化が起こるということは、世界の歴史を見れば明らかです。

一つの例を紹介しましょう。ルネサンスは、十四世紀のイタリアのフィレンツェを中心に始まり、十六世紀まで続くヨーロッパにおけるギリシア・ローマの古典文化を復興しようとする動きです。ルネサンスが勃興した原因については、十字軍遠征によって、イスラム文化だけでなく古代ギリシアやヘレニズム文化にも接触したこと、東方貿易が始まり、巨万の富を得たイタリアの一族がルネサンス芸術の強大なパトロンになったこと、ビザンツ帝国へオスマン帝国



が侵攻したことによってギリシアにいた学者の多くが難民となって、文献を携えて裕福なイタリアに渡り、パトロンに支えられながらローマやギリシアの古典文化を広めたことなどが、その主なものとして挙げられます。しかしながら、その背景には、ペスト（黒死病）のパンデミックがありました。多数の死者が出て人口が減少する中で、都市の経済活動が停止して商店は廃業し、会社は倒産して、多くの空き家ができました。数年後ペストが治まった頃、古びた建物が取り壊され、新しい建物の建築が進みました。この復興をフィレンツェで進めたのは、銀行業を営むメディチ家とローマ教会、そして芸術家達でした。ギリシア・ローマ時代を参考にしながら、独自の建築技法を駆使し、その建物や街を飾る絵画・彫刻が作られました。このようにして、ルネサンス（文芸復興）は、起こったのです。

ここで、メディチ家がなぜ巨万の富を得ることができたかを考えることが大切です。旧勢力の銀行が「王家との付き合い」を重んじる旧態依然の営業であったのに対して、メディチ家は、支店ネットワークを広げ、各地の情報を収集・分析して事業を拡大したのです。さらに、複式簿記を採用し分権的な経営をしたことも、メディチ家をヨーロッパ最大の銀行にする原因になりました。つまり、新しい時代を見据えて、新たな経営戦略を実践したことがメディチ家の隆盛を確固たるものにしたのです。

世界的に第二波、第三波が襲来し、現時点では終わりの見えないコロナ禍ですが、過去に終わりのなかったパンデミックはありません。終息する日は必ず来ます。そして、世界を震撼させたポストコロナの時代には、確実に大きな変化が起こることが予想されます。大局的には、第一次世界大戦後の国際連盟、第二次世界大戦後の国際連合のように、新たな国際協調の仕組みや機運が生まれる可能性があります。さらに、各国は巨額の財政支出をしたことへの補填が迫られることになるでしょう。身近なところでは、在宅勤務や週休日を増やす働き方改革、さらには、個人の志向、価値観の変化も起こるでしょう。

ペストが終息した後にルネサンスが勃興したように、ポストコロナの時代には、大きな変化が生じることが予想できます。併行して、小学校英語教育の導入、新学習指導要領の実施、英語4技能を評価する大学入試改革など、まさに英語教育界には大きな変革期が訪れています。英語教育に携わる私たちが心がけるべきことは、あらゆる情報に対する感度を高め、社会の変化をしっかりと読み取り、将来を見据えて行動していくことです。

新時代に求められる教師の資質

令和2年度から教科書へのQRコードやウェブサイトのアドレスの掲載が認められるようになり、各教科書の目次にQRコードが付いて、リンクする音声や動画を視聴できるようになりました。本県の小学校英語で使用している東京書籍の教科書には、約200カ所のQRコードが掲載され、質の高い音声があいづつでも聞けるようになっています。来年度は中学校、再来年度は高校の教科書にも同様にQRコードやウェブサイトのアドレスが掲載されるようになります。このような教科書を活用して、子どもたちが、ICTを活用することにより、学びを深めることが可能になります。

一方、令和元年12月に文部科学省が公表した「GIGAスクール構想」の目的は、「誰一



人取り残さない、公正に個別最適化された学びの実現」です。「誰一人取り残さない」という言葉には、学校に通えない子どもたち、日本語に不慣れな外国籍の子どもたちなど、多様な子どもたちが含まれているはずですから、教室という限られた空間の中で、1人1台の端末を使って授業をすることだけを目的とするものではないはずです。授業時間以外でも、家庭学習や朝学習、さらには外出先等で、自律的に活用することを通して、個別最適化された学びを大きく推進することになります。

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、学校を取り巻く環境に大きな変化がありました。県立高校・県立中学校では、1人1台タブレットが使えるように整備されました。小・中学校についても、各市町で1人1台を目指して配備を進めています。今年度初めの休業期間には、学校で授業動画を作成して配信する学校も多かったようですが、家庭のICT環境に差異があり、すべての生徒が活用することは容易ではありませんでした。個別最適化を推進するICTの代表的なものとしては、ドリル系アプリと動画系コンテンツがありますが、1人1台タブレットが使えるようになることで、生徒が個別に家庭で動画を見て学習し、教室では家庭で学んだことをもとにコミュニケーション活動をするというような授業スタイルも可能になりますし、朝学習や家庭学習でドリル系アプリを使って学んだことの定着を図り、教師はその状況をモニタリングすることもできるようになります。

要するに、このような学習環境の変化は、授業や評価の在り方から、家庭学習との連携に至るまで、教師としての対応にも変化が求められます。子どもたちが求めれば、豊富で多様な教材が手に入り、自律して学習できるわけですから、子どもたちのモチベーションを高めることが、教師として果たすべき大きな役割になるでしょう。「教えること」と同じか、それ以上に、子どもたちが「学ぶ意欲を高めること」に大きな役割を担うことになります。新時代に求められる教師の資質として、このことを認識することが重要であると思われます。

最後になりましたが、新学習指導要領が実施され、小学校に英語教育が導入されることに伴い、デジタルコンテンツが活用できるように、小・中・高の教科書が大きく変わります。そこで、今年度の予算で、すべての会員の先生方に教科書を配付することにしました。中学校の先生方には、小学校と高校の教科書を、高校の先生方には、小学校と中学校の教科書を配付します。是非参考にしていただき、子どもたちの系統的な学びのためにご活用ください。